再発見　Playing Chart

PLAYING CHART の Introduction 第 2 項に次のようにあります。

Apart from the laying of the game and it's ancillary support,rugby embraces a number of social and emotional concepts such as courage, loyalty, sportsman- ship, discipline and teamwork.

［ラグビーをプレーするとか、競技やチームのことにかかわるサポート活動とは別に、勇気、忠実、スポーツマンシップ、規律、チームワークの 5 つの社会的、情緒的概念を包含する］

包含しているということは、それらをプレーヤーに求められていることで、プレーヤーが心がけるべきものであるということです。そしてそれらは一方、プレーヤーがラグビーから得られるものでもあるということです。競技を楽しむ過程で、そのような心や態度が培かわれ養われるということです。前の 2 つを精神的により高めることが目標となり、後の３つは身体的に活動を通して実行することが求められるものですが、相互的相乗的なものです。

［勇気］

勇む心　逸る心で勇敢に勢いよくすることです。高い所から水に飛び込んだり飛び降りる勇気や、命がけで高い山に上るような危険なことに挑戦する気持ちです。

ラグビーは危険なスポーツではなく、安全第一の競技です。憲章の勇気も正確に認識して競技を楽しむことが大切です。BETTER RUGBY 一節です。

Many people believe that a great deal of potential talente is lost to the game in the early stage because a teacher has been aggressive in his attitide and has produced the well worn cliches of “this is a man's game "-“sorts the men out from the boys" -“learn to give and take hard knocks".

ラグビーは格闘技だとか激しい競技だということを強調して、ずっと以前のことですが　勇気づけるために、男の競技とか男を選び出す競技だという表現をきいたことがありま　すが、ベターラグビーはそれを戒めています。

勇気は、課題・目標に勇んで勢いよく挑戦し達成する心です。向上心があり、意欲があるところに、目標に向けて全力で集中努力して勝つことが勇気行程であって、目標達成感は勇気の報酬です。

互いにぶつかりますが、危険な競技ではありません。Playing Charter に書かれているように、男女、大人、子供、誰でもどこでもプレーしている普通の競技です。

Rugby is played by men and women and by boys and girls worldwide. More than three million people aged from 6~60 regularly participate in the playing of the game.

求められる勇気は、健康な人が元気一杯スポーツを楽しむ活気です。個人がより強く、チームがより強く力を合わせ目標に向かって努力する気持ちです。普通のことを普通にできる、元気と積極性ある人がラグビーをしようかなと思いつき、相手に勝ちたいと考える時に勇気が高まるのです。

ラグビー指導の原典である The Guide of the Coaches の ATTITUDE AND FUNDAMENTALS の PHIKOSOPHY の Our choice appears to be:

1. To continue with our somewhat happy-go-lucky attitude.
2. To make a realistic attempt to regain world standerd without losing:
   a. Our flair
   b. Our enjoyment
   c. Our broad objectives in the process

ラグビーに魅力を感じる心を分析しています、これらは、ラグビーの良さであり、健康で、楽しく、発想を生かして、伸び伸び豊かな人生を送るための、基礎的な勇気の源です。

以前に「Rugby spirit」について外国の指導者に幾人かに質問しました。Fighting Spirit という言葉に始まり、当然のこととして gentleman ship という答えが返ってくるものと思っていましたが、案外に冷静で話は深まりませんでした。結論的には正しい答えは「ルールブックに書かれている」ということでした。ルールの精神ということになります。更にしつこく尋ねていくと、tough とか patience に到達しました。攻撃する力 attacking power より抵抗する力 power of resistance が重要で、激しいタックルは attacking tackle ではなくて aggresive tackle ということを理解することで、couurage という言葉に納得したこともありました。高校生がラグビーは 3K

即ちきつい、きたない、危険なスポーツというのは一部の指導者が間違った取組をした結果であって、残念なことです。日本代表の主将で新日鉄釜石の森選手は、引退にあたりラグビーから学んだことは「思いやりの心」と答えました。闘志あふれるタックルと突進の底にある温かい心をラグビーから得たものとしてあげています。同じく日本代表主将で東芝の赤鬼マッコーミック選手は、W 杯に敗れた総括として「size より tough」と敗因について冷静に分析しています。これらの言葉は、勇気の源として抽出されるべきものを含んでいるのです。

［loyalty 忠実］

全体主義のもとにチームに忠実であるということです。個人が個人主義ではなく、全体に奉仕するということは私心や利益を控えることになります。

忠誠心の対象は一般に国家と考えられます。ラグビーは直接国家への忠誠を求めるものではありません。スポーツではチームに対する忠実心です。忠誠心は読み換えてください。プレーヤーたちは大英帝国に対する忠誠をつくし国家社会に貢献しました。そのことと、Playing Carter は別の次元のことです。チームに対し忠実に尽くす心です。

忠実であるためには、自己以外の目標に対しての自己犠牲が伴います。全体のために自己を主張することなく、優先順位を全体に忠実であることにおいて、全体奉仕することが全体に生きることによって、自己も生きたことになるという理屈です。

自己中心ではなく全体のためにあるために、苦難にたえなくてはならないことがあります。チームの目的達成のため忍耐が要求されるとき、強くたえる勇気が必要です。

勇気があってこそ忠実が遂行することができるのです。one for all という掛け言葉は忠実であることを唱えるものです。15 人という多人数チームであるラグビーは特にキャプテンシー capyaincy キャプテンの地位・権を重んじます。それは普及発展の過程から生じ重んじられたもので、多人数競技として不可欠のものです。チームのきめごとを忠実に守ることが強く求められるばあい、その意思と行為の中心になるのがキャプテンです。

［スポーツマンシップ］

スポーツマンには、スポーツを楽しむに当たって、スポーツに対する望ましい姿勢や心がけが求められます。それらは同時に、スポーツを楽しむ中でスポーツから得ることのできるものでもあります。スポーツをすることにより自ずと身につき、一層高められて一般社会生活に役立つものです。生活習慣の中に生かされているも多くあります。例えば、フェアーであることは大切ですし、時間を守ることも最初の原則です。雨の降る中での試合も、約束の時間に試合を始めたらたまたま雨が降ってきたというだけのことです。ノーサイドは試合終了ということですが、激しく戦ったもの同志が戦い終われば一つの集団になって仲良くするということで、そこから新しいより深い友情が生まれるのです。ラグビーにおけるスポーツマンシップの原点は、創世期、ルールが少なかったことを称える言葉にみることができます。

The History Laws of the Game の前書きに次のような記述があります。

It was not a bad game; the greatest beauty of it was that there were no rules.

ルールを守るということは、ルールの精神を生かすことで、ルールの下僕になってはならないということです。勝利至上主義に陥ると道義に反する行為に走ることになり、必勝の信念で戦うことは大切ですが十分いましめなくてはなりません。日常生活に生きるものとしてノーサイドの心がけも非常に大切なものです。

［規律］

規律の同意語は命令 order であり規定 rule です。チームの目的達成のために個人を律する約束です。チームの向上のためとりきめ、基本的精神の忠実より一歩進めるものです。チームに所属するということの第一義はチームの規律を守ることに始まります。時間を守るというのもその一つです。

BETTER RUGBY 第一章　グループづくりで述べています。

If the shorest and tallert players are positioned as end markers, the remainder of the group can quickly take up position in the line according to their size.
It is then a simole task for the teacher to move along the line numbering each player.

命令がよりスムースにまもられるには、スムースに守られるための方法も目的達成の多めの重要課題となります。

If the practices require units of two,2 and 2,3 and 4 work together. To form units of three, 1, 2 and 3 work togerher and so on. If the change from one activity to another is quick and without fuss then the boys remain disciplined and derive much more satisfaction from the lesson.

最終節に「プレーヤーたちの規律が保たれ練習から大きな満足が得られぬことになる」とあるのは、規律の内容と取り組み方を示唆するものです。

規律には自浄作用を含みます。お互いに留意しあって邪悪から遠ざかる営みです。例えば、反則を少なくするということも重要です。レフリーの目を盗むことや、規則ぎりぎり一杯の行為で反則を科されても仕方がないというやりかたはスポーツマンとして反省しなければなりません。

［チームワーク］

HOME WORK, LIFE WORK, 等々WORK のつく言葉は多く使われます。

TEAM WORK はチーム協同作業です。目的達成にむけて全体の力を統合することです。

バラバラな力が統合されることにより力の倍加となって楽しみの倍加するのは測りはれないものがあります。

力統合のための工夫と協力過程にはそれぞれの段階があります。個人の力評定。計画の組織的立案作図。目的の共有。そして、全員が生きて働き任務が遂行されることです。

力の集中と分散については、組織的であることと、計画的効率的に活動することを掛け合わせて数式化し、計画的に散在し連係して最終的に一点に集中して敵に対する道筋が想定されねばなりません。

全力を尽くすとは、まず個人がボールを持って全力走ることに始まります。ゴールに飛び込める位置おいての状況では直進以外のありませんが、それ以外は、味方のサポートにどうつなぐかで、作戦に従うことがより効果を発揮します。

チームワークはチーム作りの段階から考えねばなりません。先に信用した BETTER RUGBY の始めの節にチーム作り初段階のグループづくりに於ける要点が示されています。スムースに抵抗感無く運ぶため身長順にならばせる方法があり、身長順に並ぶことにより、自己の全体の位置づけと違いを認識することに役立ちます。技術より体格による組分けが初期の段階では絶対大切です。2 人組や 3 人組は最初は同等の体格のもので進めるのが要領です。ある程度進んだところで、一番速いプレーヤーを一番外側に位置させ、取ったボールを一番有効な彼に協力して回すことへの重要さが理解ができて、all for one の one 何（誰）をさすのかという疑問に対する答えが明確になります。共産主義教育理論の中では all for one , one for all と明確に宣言するがラグビーのチームにおいては、その時にチームの中で一番有利な位置にいるプレーヤーということで試合中刻々変動するので不適当な掛け声と言わざるをうません。チームにとっての判断最高の一人はだれかという判断が必要な場合が多い。チームワークを唱えながらも常に個人が考え判断することが必要なのです。

RFU の COACHING SCHEME に次ようにあります。

Will coaching stifle flair?
Bad coaching certainly will, but that is another story! If a player in your side has a magnificent side-step then what you have to do is to so organise your play that he has the best possible opportunity of using it. One side-step at the right time and then linking up for a try is much more effective than trying to side-step all of the time.

チームワークは命令的にトップダウンのものですが、どうじに flair 個人の発想も絶対に必要です。平素からそれを大切にすることをつとめねばなりません。チームワークと個人の発想による瞬間の判断決行は車の両輪のようなので片方だけ強く働いても前に動かないのです。一つ一つの経緯と結果を検討してチームワークを高めていくことが練習のたのしみなのです。Go forward, Support, Cotinuity, pressure の 4 標題について検証と議論をすすめていくことが基盤になります。

アメリカンフットボールのニュート・ロックニー監督の「要は個人ではなく、一丸となって動くこと、監督としては、best11 人ではなく、11 人でベストになる選手を使う」という言葉は、チームワークについての核心をついたものです。

2008. 10. 11
西川　義行